



主要な農作物の生育情報

令和2年度 第4号

(令和2年7月9日)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水 稲

7月7日現在の農業総合センターの作柄解析試験コシヒカリの生育調査によると、本部（郡山）では、平年より草丈はやや短く、茎数はやや少なく、主稈葉数はやや多く、葉色は濃くなっています。会津地域研究所（会津坂下）では、草丈は平年より長く、茎数は平年よりやや多く、主稈葉数はやや多く、葉色は濃くなっています。浜地域研究所（相馬）では、平年より草丈はやや長く、茎数は少なく、主稈葉数はやや多く、葉色はやや淡くなっています。主稈出葉からみた生育は、本部と会津地域研究所では平年より3日早く、浜地域研究所では6日早くなっていますが、幼穂形成始期は各地域とも平年並からやや早まる程度と見込まれます。

表1 水稲の生育状況（※）

調査場所	品 種	移植期 (月.日)	7月7日調査				幼穂形 成始期 (月.日)
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (枚)	葉色 (SPAD502値)	
本 部	コシヒカリ	5.15	53.7 (97%)	643(96%)	10.6 (+0.5)	38.3 (+2.0)	- (7.20)
	ひとめぼれ	5.15	53.1 (101%)	649(96%)	10.6 (+0.4)	40.9 (+2.8)	- (7.13)
	天のつぶ	5.15	49.7 (91%)	545(90%)	10.3 (+0.6)	39.6 (-0.4)	- (7.13)
会津地域 研 究 所	コシヒカリ	5.20	65.0 (108%)	706(103%)	10.9 (+0.2)	38.8 (+2.6)	- (7.15)
	ひとめぼれ	5.20	65.1 (111%)	716(94%)	11.2 (+0.5)	41.6 (+1.9)	- (7.8)
	天のつぶ	5.20	62.4 (104%)	643(95%)	10.4 (+0.2)	41.3 (-0.1)	- (7.11)
浜 地 域 研 究 所	コシヒカリ	5.11	67.4 (105%)	705(89%)	10.5 (+0.4)	35.2 (-1.2)	- (7.14)
	ひとめぼれ	5.11	64.8 (102%)	718(90%)	10.5 (+0.3)	38.4 (-1.2)	7.6(±0)
	天のつぶ	5.11	65.0 (104%)	618(83%)	10.1 (+0.4)	39.9 (-1.4)	- (7.6)

※ 調査場所は、本部（郡山）、会津地域研究所（会津坂下）、浜地域研究所（相馬）。

葉色は、SPAD502による測定値。7月7日調査の（ ）内の数字は、前5ヶ年平均値との比較値を示す。幼穂形成始期が未達の場合、（ ）内は平年値を示す。

2 大 豆

標播、晩播とも、出芽は概ね良好です。本部の標播では、播種後の少雨に加え、6月中旬の降雨で土壌表面が硬化し、出芽が大幅に遅れました。

表2 大豆の生育状況（※）

調 査 場 所	品 種	播種 時期	播種期 (月.日)	出芽期 (月.日)	出芽日数 (日)
本 部	タチナガハ	標播	5.29 (-3)	6.20 (+8)	22 (+11)
		晩播	6.18 (-1)	6.28 (+2)	10 (+3)
会津地域研究所	あやこがね	標播	6.1 (+1)	6.12 (+3)	11 (+2)
		晩播	6.19 (-1)	6.26 (±0)	7 (+1)
浜地域研究所	タチナガハ	標播	6.8 (-2)	6.16 (-3)	8 (-1)
		晩播	6.22 (-2)	6.29 (-1)	7 (+1)

※ 調査場所は、本部（郡山）、会津地域研究所（会津坂下）、浜地域研究所（相馬）。

（ ）内の数字は、前5ヶ年平均値との差を示す。

【野菜】

1 夏秋きゅうり

5月下旬定植の露地栽培の生育は主枝摘心が終了し、収穫は主枝中段から上段となっています。側枝は順調に発生し、着果量も増加しています。病害はうどんこ病、斑点細菌病が発生しています。

2 夏秋トマト

4月中旬定植作型は、1～2段収穫と平年並で、7～8段花房開花となっています。現在、曇雨天の影響により着色が遅くなっています。

病害は灰色かび病、害虫はアザミウマ類、コナジラミ類が発生しています。

3 さやいんげん

5月下旬定植の露地栽培は、順調な生育となっており、平年並の6月下旬より収穫が始まりました。安定した着莢となっており、7月以降の出荷量は増加の見込みです。

4 夏秋ピーマン

4月下旬定植のトンネル栽培の収穫は、平年並の6月中旬より始まりました。安定した着果となっており、7月以降の出荷量は増加の見込みです。

【果樹】（農業総合センター果樹研究所における7月1日現在の生育概況）

1 もも

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が52.0mmで平年比108%、側径が52.8mmで平年比115%、「ゆうぞら」は縦径が51.5mmで平年比112%、側径が47.1mmで平年比116%と平年より大きい状況です。満開後日数の体積指数で比較すると、「あかつき」は平年並、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

DVRモデルによる「あかつき」の収穫予測では、本年の収穫開始日は7月25日頃で平年より8日早い見込みです。

2 なし

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が34.2mmで平年比105%、横径が41.7mmで平年比106%と平年よりやや大きく、「豊水」は縦径が35.1mmで平年比102%、横径が38.8mmで平年比104%と平年並の状況です。満開後日数の体積指数で比較すると、「幸水」は平年並、「豊水」は平年よりも小さい状況です。

DVRモデルによる「幸水」の裂果初発日は7月7日頃と推測されます。また、同モデルによる収穫予測は、収穫盛期が8月25日頃で平年より6日早い見込みです。

3 りんご

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が46.9mmで平年比94%、横径が54.8mmで平年比100%と平年よりやや小さく、「ふじ」は縦径が45.1mmで平年比101%、横径が49.3mmで平年比105%と平年並です。満開後日数の体積指数で比較すると、「つがる」は平年より小さく、「ふじ」は平年よりやや大きい状況です。

4 病害虫の発生

モモせん孔細菌病、なし黒星病、果樹カメムシ類の発生が確認されるため、果樹情報特別号の発行等により注意を喚起し、現地における防除対策の徹底を図っています。

【花き】

1 キク類

8月咲きは、定植後の乾燥により生育はやや短い、発雷はやや早いとなっています。9月咲きは、生育は良好で平年並です。

害虫は、アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガ等の発生が一部産地で増えてきており、病害は、白さび病等の発生は一部の地域で見られています。

2 リンドウ

極早生品種は、6月下旬から出荷が始まり、5日程度早い～平年並です。また、早生品種は、発蕾しており、草丈は平年以上となっています。

病害虫は、降雨が続いたため黒斑病の発生が見られ、アザミウマ類の被害が増えてきています。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、1番草において5月中・下旬から収穫作業が行われ、収量は平年並、品質は良好な状態です。2番草の生育は再生期から出穂期にあり、7月上旬以降に収穫期となる見込みです。

2 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは、5月中旬から播種作業が行われ、5～10葉期前後で、順調に生育しています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiikujyohou>